中種子町の鮫島達さんは、生まれも育ちも種子島。就農46年目のベテラン農家です。

昨年から中種子町キビ甘藷振興会会長に就任。地元校区の村づくり実行委員会の会長も10年以上務め、子供の食農教育などの地域貢献にも積極的に取り組んでいます。

23歳の時に農業関係の企業に勤めながら後継者として父親の手伝いからスタート。その後、でん粉原料用甘しょ50アール・サトウキビ100アールを引き継ぎ、徐々に規模を拡大し続けています。

輪作にでん粉原料用甘しょをサトウキビとの相性は抜群

今年はでん粉原料用甘しょ80アール・サトウキビを130アール作付している鮫島さん。40年以上生産し続ける秘訣はでん粉原料用甘しょとサトウキビの相性にあると言います。「輪作でどちらも連作障害になりにくく、生産がしやすい。農産物のコンビのようで相性は抜群」と話しています。

農業には欠かせない輪作。安納芋も作付けしたことがありましたが、病害虫や悪天候にも比較的に強いでん粉原料用甘しょとサトウキビのコンビで更なる規模拡大に意欲を燃やします。

中古農機を自分で整備省力化とコスト削減

鮫島さんの趣味は、自分の農機具を整備・改良すること。50年以上も前の小型トラクターを使い続けていました。

「自分の農機具は全て中古。メンテナンスも定期的に行い、長く使い続けることでコスト削減になる」と話します。

農機具の改良では、トラクターで農薬散布ができるよう金具を取り付けタンクを固定。人力での散布作業の省力化に成功し、管理作業も効率よく行うことができるようになりました。

「省力化とコスト削減は常に考えている。経営の安定のために続けていきたい」と農機具整備に精を出します。

若手農家が増えてほしい手本となる農家になりたい

「もっと若手農家が増えてほしい。自分が農業の省力化やコスト削減を進めることで、農業で稼げることを伝えていきたい。Iターン・Uターン者や若手のお手本になれれば嬉しい」と話す鮫島さんは、省力化とコスト削減をモットーに農業経営に励み続けます。